研修名	幼児教育・保育
	平成２９年１０月１９日（木）１０：００～１２：３０
講　演	「一人一人の子どもの個性と能力を育む幼児教育」
講　師	神戸大学大学院　北野　幸子氏

１、はじめに

① これからの時代を生きる子どもたちに育みたい力

・これからの時代は変化の時代である。

（国際化、情報化、人工知能化、グローバル化、多元文化と触れ合う時代）

→手順通り、機械がやる。

・変化の時代、不安な時代にこそ、心の「芯」を子どもたちに育むことが大切である。

→人間にしか出来ないこと、気持ち、気付き、悩み、感情を育む。

大人が一人一人の子どもを見ていくことが必要。見取る、洞察する。

子どもが自分のことを好きになる。

乳幼児期の教育＝人間形成の基盤づくり

２、遊びを通じた遊び

１）　乳幼児期の発達に適した教育とは

応答的		教育的
・発達に適した保育 ・主体性を尊重した保育 ・個性に応じた保育	しかし同時に	・関心、期待のある保育 ・意図のある保育

保育は、子どもの主体性、自己発揮を大切にする。

保育者は、ただ見守っているだけではいけない。

子どもが何に興味を示しているかしっかり把握することが大事である。

２）遊び中心の保育

保育の前提：子どもが安心して過ごせること（養護）

好奇心、探究心、あこがれが受け止められ、社会性、情緒、知的な発達が保障されること

居心地がいい場所であること

保育方法の独自性：「無自覚の学び」を保育者が自覚的に支える。

子どもの主体性を尊重→環境を通じた保育

やっていくうちに学んでいく。経験ありきである。

子どもは先生に見てもらっているという安心感が必要である。

過度な期待は害になるが、発達に適した期待が必要である。

その子の今ある実態に応じた発達の視点が大事である。

3）知識基盤社会に「生きる力」を育む

「暗記型・記憶型・結果主義」→「活用型・展開型・文脈主義」の学びへ

子どもの生きる力を育てるには

① 自分で考えること（知識と技術を活用して）

② 自分で決めること

③ 自分で行動すること

・「～するべきである」ということを命令ではなく、子ども自身が「そうだな」と思えることが大切である。

例えば、手を洗わない、うそをつく、時間を守らない、約束を守らないなど

「手を洗いなさい」と怒られるだけでは身に付かない。

手洗いがしたい気持ちを育むことが大事である。

3、一人ひとりの子どもの理解

1）　発達を考える

2）　人間関係を考える

3）　学びの内容を考える

4、子どもの発達と遊びの特徴

1）　0・1歳児・・・親・保育者との人間関係が中心、基本的信頼関係を形成

2）　1・2歳児・・・自我の芽生えや自己主張の見られる遊び

3）　3歳児・・・「みててみてて」精神的依存関係、共感中心の関係へ

4）　4歳児・・・他者への認識、他者の気持ちへの理解が深まる

5）　5歳児・・・固定的遊び仲間の成立、ルールの活用、人間関係の複雑さへの気づき

クラスの一員としての自覚、クラス・園・地域・社会への関心

・個々の子ども（発達・感情・性格等）を知り、育ちや学びを援助するには

発達についての基礎知識、発達を見抜く、知識の活用力

＋

学びの軌跡を踏まえる、学びの見通しをもつ

感想

講演の中で、「育ちは無限である」という言葉に改めて考えさせられました。水槽の中に砂を入れていっぱいになるとできたではなく、砂場で山を積み上げていくことが保育である。「まだ～できない」と不足部分を探すのではなく、プロセスを見て子どもの状態に対しての援助が必要である。保育は子どもの主体性・自己発揮を大事にする。など保育者は、一人一人の子どもをしっかり見て、今何に興味を示しているかを把握し、意図を持ちながら援助していかなければならないと学びました。自分の保育を振り返り、一人一人の実態に応じた発達の視点に基づき、保育を進めていきたいと思います。

（記録　京丹波町立わちエンジェル　隅山ゆかり）